

日本の消滅危機にある言語の知名度調査

満山新 23B41372
東京工業大学生命理工学院

1. はじめに

現在、日本には消滅の危機にある言語・方言が8つある(UNESCO,2010)。以下ではこれらを全て「言語」と呼ぶ。これらの言語の消滅、つまり話し手がいなくなることは文化的な損失となる。そのような事態を避けるための施策として、これらの消滅の危機にある言語を広く周知させることが重要である。そのための活動として、これまで危機言語に親しんでもらうための様々な取り組みが官民間問わず行われてきた。本レポートでは、これらの危機言語の知名度を明らかにする。

2. 方法

今回、SNSのX(旧ツイッター)のアンケート機能を用いて調査した。各言語に対して、「知っている」と「知らない」の2択から選ぶ形式にした。

3. 結果

結果は以下のようになった。
この表からわかるように、アイヌ語の認知率が97%と、他の危機言語と比べ突出して高いことがわかる。
表1: 危機言語の認知率

言語	回答数	認知率(%)
アイヌ語	36	97
八重山語	90	14
与那国語	36	28
八丈語	35	20
奄美語	45	31
国頭語	32	6
沖縄語	33	55
宮古語	46	20

4. 考察

ここでは、アイヌ語の知名度が高い要因について解説する。
まず、アイヌ語の認知率が高い背景にはアイヌ民族自体の知名度の高さがあると考えられる。実際に、過去の調査によると、日本国民の94.2%がアイヌ民族を知っていることがわかる(内閣府,2018)。
次に、アイヌ民族の知名度が高い要因を2つに分けて解説する。
第一に、アイヌ文化に関連したコンテンツの人気がある。累計発行部数2700万部を突破した漫画「ゴールデンカムイ」がその代表である。
第二に、政府の政策がある。2019年に施行された「アイヌ施策推進法」や、2020年に開業した「ウポポイ(民族共生象徴空間)」がその代表である。

5. おわりに

本ポスターでは消滅の危機にある言語の認知度について検討した。その結果、アイヌ語の認知度が高いことが分かった。その要因に、アイヌの民族自体の知名度の高さがあると考えられる。その他の危機言語を話す民族・文化の知名度を上げる具体的な方法を考案するという点が今後の課題である。

文献:
UNESCO (2010) 「Atlas of the world's languages in danger」 Unesco Digital Library.
内閣府政府広報室 (2018) 「アイヌ政策に関する世論調査」 内閣府